



ペットボトルは 貴重な資源

環境に優しい容器！

清涼飲料業界は CO₂ 削減、
リサイクル率向上など
環境問題に取り組んでいます

「清涼飲料水の容器は、 78.2%がペットボトル その背景とは？」

清涼飲料水のマーケットは、年々右肩上がりです。大きな転機になったのは、1982年に登場した新しい容器「ペットボトル」の出現です。1996年には小型ペットボトルが発売され、その利便性から消費者ニーズに合致し、家庭内でも外出先でも広く使われるようになりました。

今、日本国内では、国民1人あたり、清涼飲料水をおよそ500mlのペットボトルで毎日1本飲んでいる計算になります。

あらゆる飲料に対応できる容器＝ペットボトルが登場したことが、その背景にあります。

1人平均1日あたりの消費量は

約 **498** ml

そんなに
飲まれているんだ！

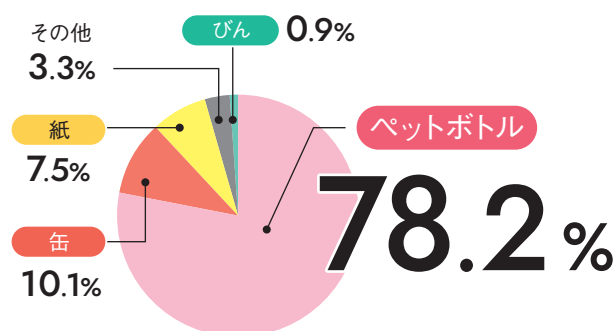


多種多様な消費者ニーズに お応えするペットボトル

清涼飲料水はいま、大部分がペットボトルで販売されています。容器別の生産量を見てみると、2022年現在、ペットボトルが全体の8割近くを占めています。

ペットボトルは、当初大型容器による炭酸飲料や果汁飲料が主体でしたが、多種多様な消費者ニーズにお応えすべく、メーカー側も開発・生産技術等を進化。コーヒーや紅茶等を含めほとんどの飲料カテゴリーが生産できるようになるとともに、容器サイズのバリエーションも充実し、手軽に手ごろに購入いただける身近な容器となっています。

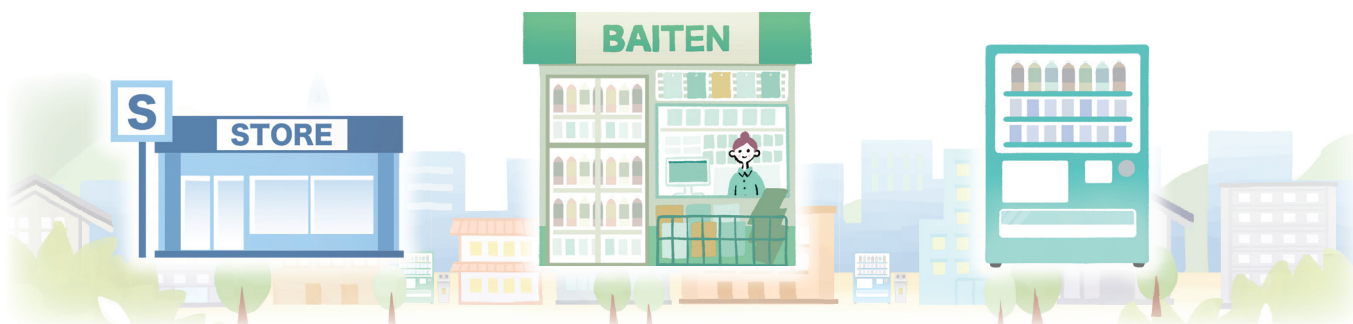
容器別生産量シェア（2022年）



出典元：全清飲活動レポート2023

※端数処理により円グラフの合計が100%にならない場合もあります。

ペットボトルはさまざまな場所で購入されています



「こんなに便利！ ペットボトル」

ペットボトルがこれだけ急速に普及した理由は、ほかの容器にはない優れた点がたくさんあるからです。しかし、あまりにも身近なものになり過ぎたせいか、その良さが見過ごされているところがあります。改めてペットボトルについて知っていただくことで、地球に優しいことを理解していただければと思います。正しく回収すれば「リサイクルがしやすく、環境に優しい容器」なのです。

軽量・丈夫なので 持ち運びが楽

ペットボトルは、同じサイズのびんと比べると1/7から1/10の重さしかありません。その分商品は軽くなり、持ち運びもずっと楽になります。



繰り返し キャップができる

ペットボトルはキャップを何度でも開け閉めでき、移動しながら飲むのに最適です。



ペットボトルは
災害時の
備蓄用としても
使われています！

加工しやすいので サイズが豊富

ペットボトルは加工がしやすいので、より商品に合った形にすることができ、またサイズやデザインも、他の容器よりバリエーションが豊富です。



透明で 中身が確認できる

ペットボトルは容器が透明なため、中身の状態をしっかりと確認でき、また飲み物が容器内にどれだけ残っているかも、一目でわかります。



リサイクルしやすく 環境に優しいプラスチック素材

ペットボトルの原料は、石油から作られる「ポリエチレンテレフタレート」（略称「PET」）という樹脂で、容器の名称はそこから来ています。回収したペットボトルを砕いて再び原料に戻せば、新品のペットボトルを作ることができます。また、洋服の繊維などに使われているポリエステルと同じ素材なので、糸にすれば繊維製品にリサイクルすることも可能です。つまりペットボトルは、リサイクルしやすいプラスチックで作られていて、正しく回収すれば、非常に環境に優しい容器なのです。



ペットボトルは、リサイクルしやすいプラスチックで作られているので、私たちの身近にあるいろいろな物に生まれ変わることができます。2021年度に日本国内で販売されたペットボトルのうち、リサイクル率は86.0%。実に9割近くがリサイクルされ、他の資源と比べても高い水準を維持しています。

※すべてマテリアルリサイクルであり、サーマルリサイクルは含みません



「ペットボトルは、プラスチックの中でも優等生 こんなものに生まれ変わる！」

1997年から「容器包装リサイクル法」が施行されたことによって、消費者はペットボトルを分別して出すようになりました。

現在、回収されたペットボトルからさまざまな商品が作られています。

代表的な事例



服に生まれ変わる！

ペットボトルの原料・ポリエチレンテレフタレートは、ポリエステル繊維の原料でもあります。もとの同じですから、回収したペットボトルから繊維を作り、フリースなどの洋服に再生することもできます。ペットボトルを繊維に加工する過程では、新たな石油資源が使われることはありません。

傘に生まれ変わる！

ある雨具メーカーが、環境や天候に深く関わる企業として、地球温暖化防止に取り組もうと2021年に開発しました。リサイクルしたペットボトルをポリエステル生地に再生。その生地で織り上げた「きれいな雨を降らせる、地球に優しい傘」。3本のペットボトルから1本の傘が作れます。

そして回収されたペットボトルは、 再び **ペットボトル** にも生まれ変わります ※

ペットボトルはトレイや洋服など、身近にあるさまざまな物に生まれ変わっていますが、
「**地球に優しい**」理想のリサイクル方法があるのをご存じですか？

※2021年度ボトル to ボトル リサイクル比率20.3%

理想のリサイクル 「ボトル to ボトル」とは？

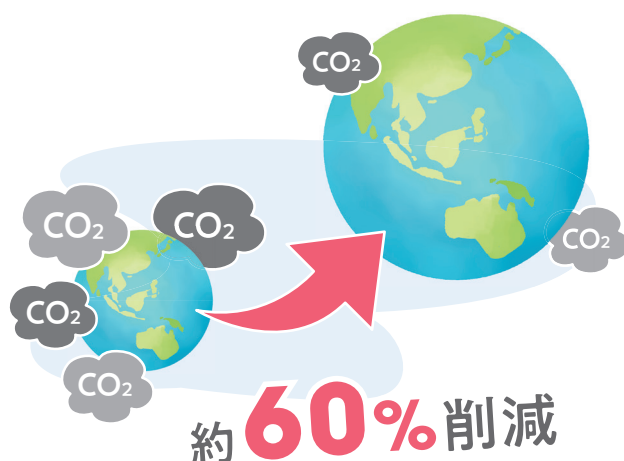
限られた資源を有効活用、CO₂も抑えられる仕組み

使用済みのペットボトルは再びペットボトルにリサイクルされています。

これを「ボトル to ボトル」と呼びます。

「ボトル to ボトル」は 地球に優しい水平リサイクル

「ボトル to ボトル」はCO₂の排出量を抑制し、地球温暖化を防ぐ「カーボンニュートラル」の動きにも合致しています。使用済みのペットボトルを回収して新しいペットボトルを作る「**水平リサイクル**」ですので、石油由来の資源を使ってペットボトルの原料樹脂を作るよりも、リサイクルしてペットボトルの原料樹脂を作る「ボトル to ボトル」の方がCO₂排出量を約60%減らすことができます。この循環型サイクルは**何度でも繰り返す**ことができるので、地球環境に優しく、CO₂削減にもつながる**理想のシステム**なのです。



ボトル to ボトル 4つのステップ

使う

ペットボトルを使ったら、ごみと一緒に捨てるのではなく、再利用を考え分別。決められた回収に出します。

伝える

ペットボトルがリサイクルしやすい資源であることや、洗ってラベルをはがし潰して回収に出すなど、正しい出し方も伝えます。

集める

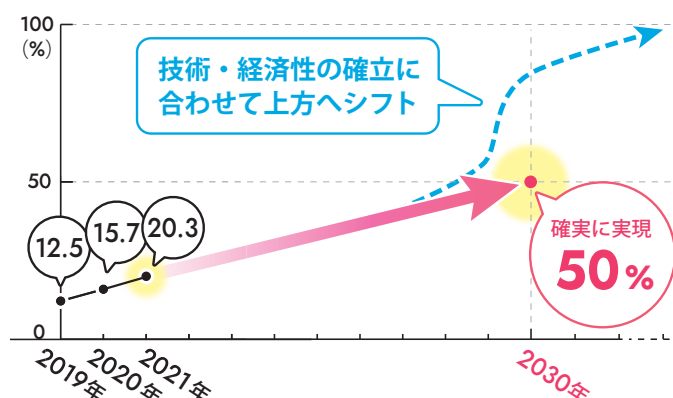
市区町村が、ペットボトルを分別回収。自販機の管理者は自販機横に設置された専用のリサイクルボックスで回収します。

作る

回収したペットボトルから異物を完全に除去。再び原料樹脂に戻して新しいペットボトルを作ります。

2030年までに**50%**達成を目標

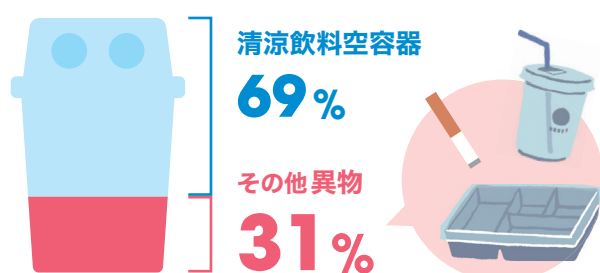
何度もリサイクルが可能で、地球にも優しい「ボトル to ボトル」の比率を上げていくことが、これからの課題です。全国清涼飲料連合会は、2030年までに「ボトル to ボトル」の比率50%を目指すと言明。この目標を実現するためには、ペットボトルが新しいボトルに生まれ変わることや、回収所や自販機横のリサイクルボックスへの正しい出し方について、社会にもっと知っていただく必要があります。



「リサイクルを推進するために、取り組んでいます」

「ボトル to ボトル」促進のために重要な、自販機横などに設置されている「リサイクルボックス」。しかし吸い殻や家庭ごみなどの異物や飲みかけのペットボトルなどを入れるケースも見受けられ、これらはリサイクルの大きな妨げになります。そこで異物を減らすことを目的に、飲料業界が試験的に導入したのが「新機能のリサイクルボックス」です。

自販機横リサイクルボックスの中身
(2018年12月東京都内にて調査／全清飲実施)



回収品質の向上が大事！

家庭から回収されるペットボトルは、皆様に分別排出をご協力いただき、キレイなペットボトルが集まる状況になっています。一方で、自販機横のリサイクルボックス、工場、オフィス、交通機関から回収されるペットボトルは、タバコや家庭ごみなど清涼飲料の空容器以外の異物が混ざっており、こうした異物混入がリサイクルの効率を下げているという課題があります。

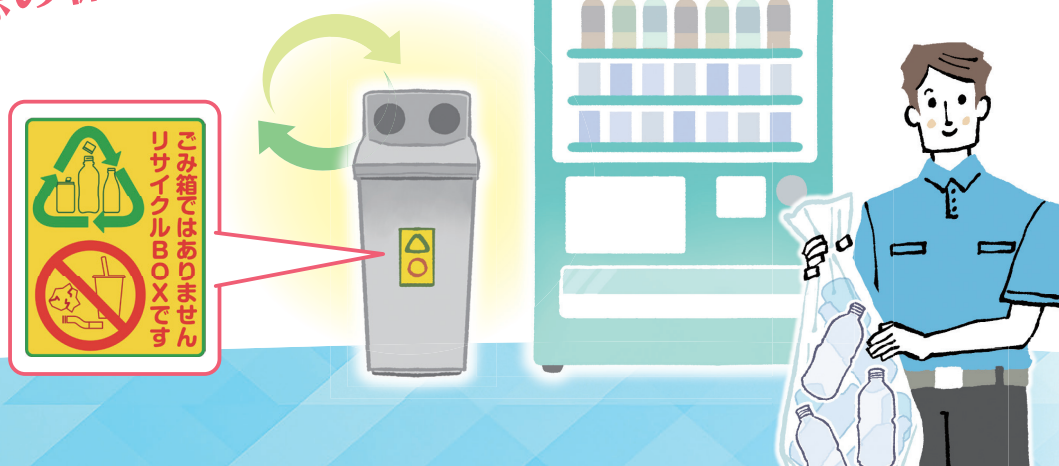
自販機横の箱はリサイクルボックスです

自販機で購入いただいた清涼飲料の空容器をリサイクルするために自販機の管理者が設置した箱です。日々自販機の管理者にて自主回収し、適正な処理を実施しています。リサイクルボックスへは、清涼飲料の空容器以外入れないでいただき、空容器も飲み残しがないようお願い致します。

異物を入れにくい新機能リサイクルボックスは、2022年秋から導入しました。



キレイなペットボトルが集まれば、資源の循環が進みます！



日本はペットボトルの リサイクル大国

ペットボトルのリサイクル率、回収率において、日本は欧米諸国を大きく引き離し、すでに世界でもトップレベルのリサイクル大国といえます。「容器包装リサイクル法」の施行によって、「ペットボトル＝リサイクルしやすい資源」という理解も進みました。消費者も進んで回収に協力していただいていることが、高いリサイクル率につながっています。

回収率をより高めるためにも、清涼飲料業界は消費者や法人向けに広報・啓発活動を推進していきます。

ボトル to ボトル推進に向け、
行政・自治体との取り組みも進んでいます。

行政・自治体との取り組み

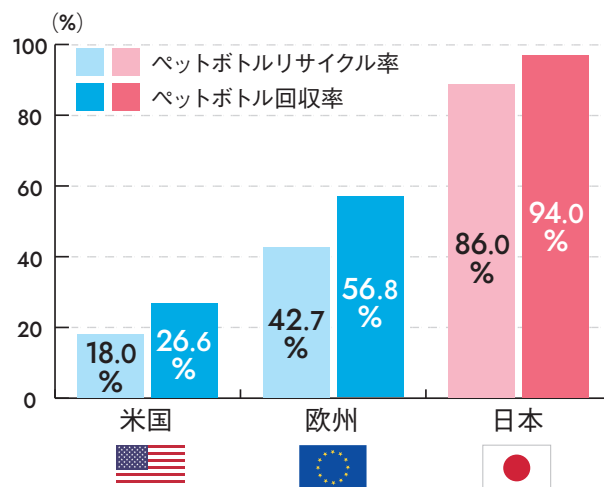
2021年

- 「ボトル to ボトル取り組み」に関する協定締結／葛飾区
- 「新機能リサイクルボックス実証実験」／静岡県浜松市・愛知県岡崎市、三重県津市
- 「海洋ごみ流出防止プロジェクト」／広島県
- 令和3年度農林水産省飲料用PETボトル資源循環モデル構築事業

2022年

- 「地域密着型協働プラスチック資源循環促進事業」／東京都大田区
- 「海洋ごみ流出防止プロジェクト2年目」／広島県
- 「おおさかプラスチック対策推進プラットフォーム」／大阪府
- 令和4年度農林水産省飲料用PETボトル資源循環モデル構築事業

米国・欧州諸国・日本の
ペットボトル回収率とリサイクル率
(2021年度 米国のみ2020年のデータ)



出典) PETボトルリサイクル推進協議会 欧州: Wood Mackenzie社
米国: NAPCOR(National Association for PET Container Resources)

世界への情報発信として、(一社)全国清涼飲料連合会は
循環経済パートナーシップ(J4CE)に加盟し、業界としての取り組み事例を紹介しています！

広報活動

詳しいペットボトルに関する情報は、こちらの「PETボトルリサイクル年次報告書2022」をご参照ください。



PETボトルリサイクル推進協議会
「PETボトルリサイクル年次報告書2022」

未就学児・小学生向けに「ペットボトルのボトル to ボトル」の啓発動画を配信しています。



環境教育教材、啓発リーフレットのお申し込みはこちらまで。
(一社)全国清涼飲料連合会 推進部広報
電話番号: 03 - 6260 - 9272

地球に優しいペットボトル

未長く使っていくためには
皆様のご協力が必要です



私たちはペットボトルの資源循環を支援しています！

- 清涼飲料自販機協議会
- 一般社団法人 全国清涼飲料連合会
- 一般社団法人 日本自動販売協会
- 一般社団法人 日本自動販売システム機械工業会
- PET ボトル協議会
- PET ボトルリサイクル推進協議会

